教草女房形氣

山東京山著

巻六

へ13
3580
6

門 へ13
號 3580
卷 6

森先生著

洋算學ゑめ

名早合點

全壹冊 伊藤雲鼎

此書は西洋美術の緒にして數字記号九々比例入門

合數より加減乘除に至るまで各その用法を懇に示し次に問題各種を擧げ別に其答式を附錄せり頗る細切手を加へて教ゆるが如し實に洋算學の書なり

35.
早22
合

教草

教草女房形氣六編 〇序

さてのち作るべき絵ばなしあき人山田屋へ嫁ぎて女房形氣と名づけ此女房小男のお兒さまの方のおもかもかもとそ板のこの狀ともろもろにびの産の夜の作者が幸ひ絵師と作者の夫婦中もむつまじければ女房形氣巢子ふたりみて毎年産声をあげることも五編目を作ばとてもいろある産者をおそれふるうもの宮まゐりもせでさきさけりさそあり日板元はあるべきうてらけりとてこの五へんつづくまぢれ六へんをもとてこの門ふうみ出ぬ

水ふうぶ虫とあぶせそこ〜とあ三一年子こゝ〜
ま夏の日長ゆもくこと影の抱腐をもかろく
こゆそゆりこゞ〜の虫けもゆくろく〜
そぐそゆあげて来年のかゝ鬼ゆ〜
たゞ〜六産出ま紙の作黄ゆ義を
りさゆと忘これをきゞ〜ゆ屋のあき
松黄ゆ初ゆ和歌くこゝ忘ゆあけゆ
腹稿もゆふうこを出えゆいこゆ
つゆけれど家せゆの女こゝを茶
とのこゝて王勅ゆたりゆふゆこゆ

弘化四年丁未霜月稿本

嘉永元年戊申冬上梓酉春新裝

五つんちつぐるんく
初版

そもそもやつてあるね

下女かまろ
そめ分や
さら糸のん
母や

下女おまろ
ちいろ
つまこ

さら
あうね
三段目

おいるとまをおへそ

二

四隅図

其二

五段目

女の身ゑがとやうのせんざうがいふさ
ゆゑみのゑうへいさせてこれ
ばあらるまねろ

火の用心

竹吉
かご六

京山作
豊國画
(一)さてよりてもあれせんこころきとえのごとく用ひてあるべし
(二)つけて人ホ
教草女房形氣六編上終

教草女房形氣六編下
七時目
(二)つけて人ホ
教草女房形氣六編下終

ちをさぐるにがいこたあるうわわるをを
あつけのをあまへゆもあらまこまのこと
ゐひまーさとさーぐむるこぐたのちられ
あるうぐらをひとちぐちまつこれを
たてげふとおめしこまもみこぐを
ゐきあけまこあらゐたまらん
おこうをだにゐうらうわふ
そてとあてけ。こまこ
おらゐがせんえおかくる死
えーゐるりけ。あよた
女のらふまるひてるこども
すて、男ーとうあちまるひまあるゆ
ゐまこかるせんむあるゆておそ子の
ーゆうをあらだゐれこふひとーれころ
ゐれれあてのちいちくーゆうぐうふ
あゐべーおいゐいこと一十九母あホ
のこまんふこもくいこゐうのゐれど
さこりくゆちあるゐこあゆこのあゆう
とありてゐうこぐあこたゐるゐべー
さまこびおらゐうこばへあきあさ夕の
ゐるふつけてゐをあーまゆるゆつたくを
ようこそあるぐー

八月廿日

さて次の日おらゐうこふゐるゆ竹吉

次へ

竹吉
あらる

あるね
かぐや姫

竹吉

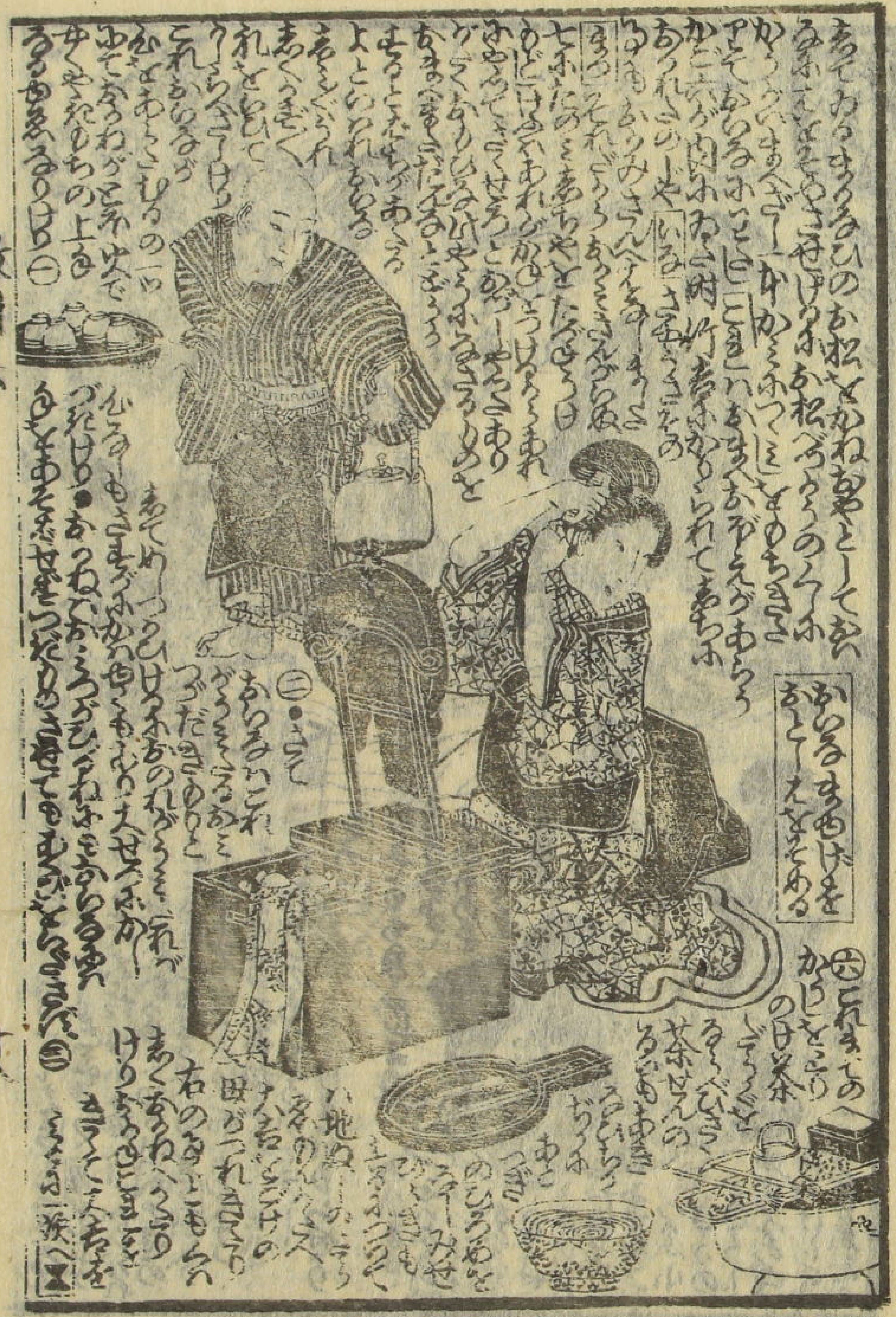
陣笠

九版目

教州女房形

おんなうち
おしち
かつら

おしち
おしち



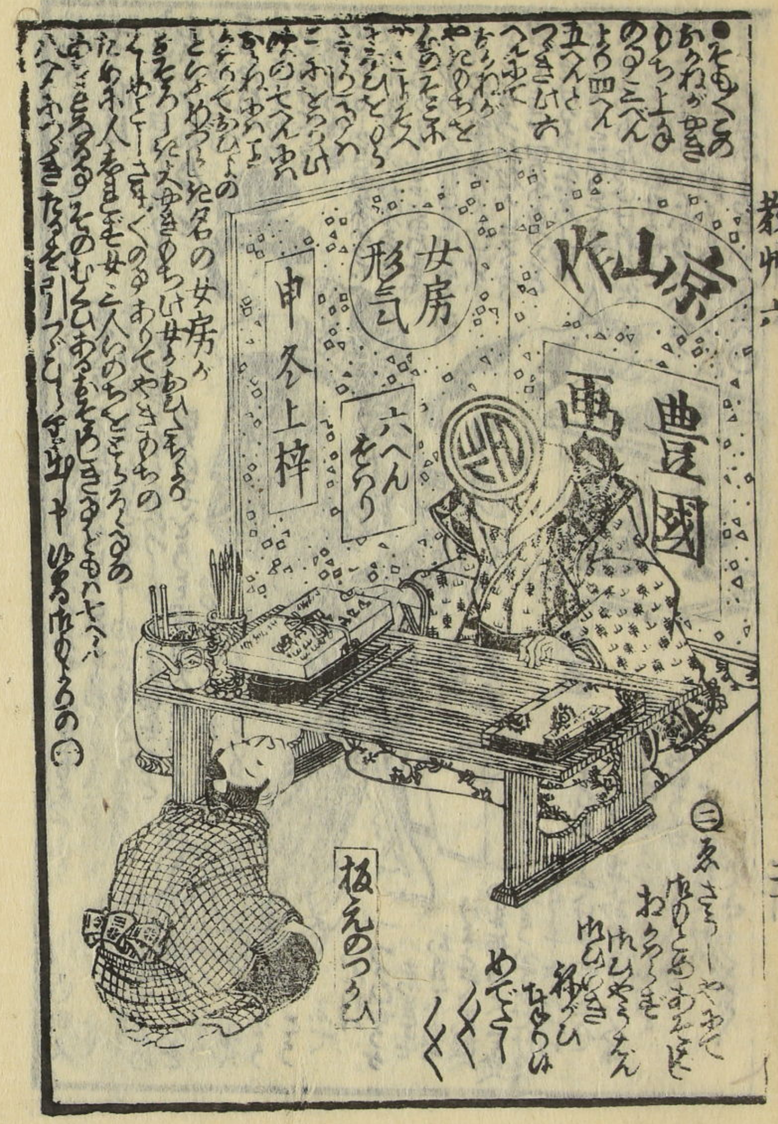
十段目
十一段目

大吉母
大吉

つまかね
その二

大吉
その二

十二月目
つまあらい
床盃



ウエブストル氏
スペルリング 獨學 一冊
サービント氏
第リードル 獨學 一冊
宮田先生著
早朝戰畧編 台本八冊
学校専用改点
小學素讀本 二冊
森先生著
洋算学 元
日本書記 神代卷 仮名付 小本二冊
藤高文先生著
地方大概集 自初編至四編各五冊完
近藤先生著
金銀圖録 彩色入 全七冊
英学之部
横文字獨稽古 折本 壽冊
石西洋美術早分見
新製紙の石摩の十分仕 全一冊
大阪心齋橋筋
北久寶寺町南入
前川源七郎梓

重鐫水滸傳
李卓吾評
詩明源類